

議員提出第16号

駅のホームドア、ホーム柵設置や適切な駅員配置などの安全対策を求める意見書

吉川市議会会議規則第13条の規定により、上記意見書を別紙のとおり提出する。

平成28年12月15日

提出者 吉川市議会議員 小林 昭子

賛成者 吉川市議会議員 吉川 敏幸

〃 佐藤 清治

吉川市議会議長 互 金次郎 様

提案理由 口頭

駅のホームドア、ホーム柵設置や適切な駅員配置などの安全対策を求める意見書

平成 28 年 8 月 15 日、盲導犬を連れた男性が東京の地下鉄駅ホームから転落し電車にはねられて死亡する事故が発生しました。視覚障がい者にとって駅ホームは欄干のない橋に例えられるほど危険な場所であると言われてきました。安全対策の遅れによって痛ましい事故が繰り返される事態は深刻です。

東京視覚障害者協会の調べ（1994 年）では、視覚障がい者の半数、全盲の場合は 3 人に 2 人が駅ホームからの転落経験があり、1994 年から 2015 年までで視覚障がい者がホームから転落し重傷もしくは死亡した事故は 54 件に上ります。日本盲人会連合が 2011 年に行った調査では、252 人中約 4 割の 92 人がホームからの転落経験があり、約 6 割の 151 人が転落しそうになったと答えています。

その後の調査でも、ホームからの転落件数は 2009 年の 2,442 件から 2014 年には 3,673 件と 1.5 倍増加しているにもかかわらず、全国約 9,500 の駅のうちホームドア設置駅は 665 駅であり約 7%にとどまっています。

現在、多くの駅では、視覚障がい者の転落を防止するために点字ブロックが敷設されていますが、これは転落防止策としては万全なものとはいえません。

多くの視覚障がい者がホームドアやホーム柵の設置を求めており、国土交通省も「ホームドアは視覚障がい者の転落を防止するための設備として非常に効果が高い」とその必要性を認めています。

また、駅のバリアフリー化が進む一方で、駅の無人化や職員の配置数縮小などが行われていることは重大な問題です。適切な人員配置は、バリアフリーの基礎的土台であり、事故防止のためにもハードとソフト両面の拡充が不可欠であり、駅の無人化や職員配置数の縮小はすべきではありません。

よって、国及び政府においては、自治体や事業者任せにせず、誰もが命の危険にさらされることなく公共交通機関を安心して利用できるよう、ホームドア、ホーム柵の設置や適切な職員配置などの安全対策を早期に行うよう求めます。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。

平成 28 年 12 月 15 日

埼玉県吉川市議会

提出先
衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
国土交通大臣